

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900685		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと船橋小室		
所在地	千葉県船橋市小室町5077		
自己評価作成日	2023年 1月25日	評価結果市町村受理日	2022年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2023年3月31日(書面)評価

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で落ち着きと温かみのある施設内と、いつも明るく清潔感のある空間を保てるよう努めている。グループホームの理念・目的でもある『暮らしの継続』を主眼におき、利用者様が自分らしく、健康で安心して過ごしていただけるように、日々利用者様の思いに寄り添い 笑みを絶やさないように、職員一同心掛けています。いつまでも自分らしく穏やかな日常生活をお過ごしいただけるように、サービスのご提供をさせていただいております。入居者が一堂に会するリビングでは、談笑したり、テレビを見たりカラオケやレクリエーションをしたり食事をする場として使用しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居後も引き続き自宅での慣れた生活ができるように、「暮らしの継続」を理念として掲げている。スタッフの守るべき挨拶やマナー等の行動基準「心得五訓」については、毎日の朝会で唱和している。面会時のコロナ感染防止には、人数制限、時間制限、ワクチン接種、アクリル板使用等々きめ細かな条件を付けて対応している。また運動不足解消のために廊下のウォーキングを習慣化している。施設長は着任後コミュニケーションの活発化に力を入れてきた。会議や個別面談の時以外でもスタッフとの雑談の機会を作り、話しやすい環境で自由な意見を聴くようにしている。期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	2022年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・休憩室に理念を掲げ、申し送り終了時に職員間で共有し唱和している。	「暮らしの継続」の理念を実践に近づけるために「ケアのお約束」と「心得五訓」を作り、「心得五訓」は毎日朝礼で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域との付き合い 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入して、地域の一員として祭りやイベントに参加し自治会員として認められている。	「小室はなみずき自治会」に加入している。コロナのため、住民との交流は殆どなくなったが、緩和に伴い一部の近隣の祭りには参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第4日曜日、認知症カフェを開催し地域住民の方と交流の機会を作っている。現在、コロナウイルスにより中断をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月おきの開催を予定していたが、コロナ禍の為に開催は中止している。今後5類に変更され諸制限が緩和されていく中で、再開を予定している。	運営推進会議はコロナ禍のため、昨年4月から中止しているが、本年5月から再開し、外部の方のご意見を伺い、運営に活かす予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事などを含めて分からないことや困ったことなどを担当者に相談して解決している。	市の窓口は船橋市高齢者福祉課。様々な機会を通じて交流を持ち、相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の割合で、具体的事例を基に研修会を実施している。	身体拘束廃止のための研修は年間計画に従い、社内で実施している。身体拘束適正化のための指針や拘束実施に伴う手順は制定済み。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などへの積極的な参加を促し、職員に理解していただき防止に努めている。		

自己	外部	項目	2022年度自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している入居者が5名おり常に連絡を取り合い、この制度について理解を深めるべく職員間での話し合いも随時行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書、契約書の説明を行い、不安がないようにし納得及び理解された上での契約となっている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は随時行っておりご意見やご要望についてはその都度反映できるようにしている。日常の写真を送ったりもしている。又、市担当職員等へも必要時お伝えしている。	コロナに伴う面会中止や面会再開について何度も直近のものに入れ替えており、家族から「その都度の連絡を書面だけでなく、電話でもして欲しい」との要望があり、そのように対応した。職員から利用者へ積極的に声掛けをして、要望や意見を聞き、運営に反映している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中でも意見交換をしたり、月に1度のスタッフミーティングを行ったり、連絡ノートの活用も行いその都度運営に必要な事については出来る限り早く反映できるように努めている。	スタッフミーティング以外でも、研修時やカンファレンス時を利用して雑談タイムを設け、話しやすい環境での自由な意見を聴くようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や年に1度の昇給、勤務時間等については各職員と話し合い少しでも働きやすいようにしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング等短い時間でもスキルアップ出来るよう努めている。月1回の社内研修の機会も設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため同業者との交流はげんしようにしてしまい、情報交換もできていない状況下にあった。	

自己	外部	項目	2022年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し、入居後には積極的に声掛けし、傾聴とともに安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事及び要望を傾聴し信頼関係を築いて安心して入居が出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について話し合いを十分に行いご理解頂いた上で適切な支援できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事ややりたい事等を見極め残存能力を最大限に活用してやりがいのある生活が出来るよう支援していく。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の施設での生活状況や問題点などを随時家族へ報告・相談し、コミュニケーションを深めより良い信頼関係を築けるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での親戚、友人、知人等の面会や外出は制限され、電話等で対応しているがただ、なかなか難しい状況が続いている。	コロナ禍で、「条件付きの面会」となり、知人や家族との交流機会が減ってしまっており、利用者や職員が馴染みの人になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に日中はリビングで過ごして、利用者の性格などを踏まえて席順を工夫し仲良く過ごせる環境づくりをしている。			

自己	外部	項目	2022年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、連絡、相談を受けられるように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の希望や思いを聞いて、スタッフ間で話し合い、本人の意向に沿った生活が送れるよう努めている。	入所時、「どのように暮らしたいのか」本人や家族、ケアマネジャー等から要望を聞いている。本人の日々の表情や仕草から、思いや意向を汲み取り全職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーと協力しあいながらこれまでの暮らし方や生活状況他、本人と家族から情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況や心身状況について記録を残しスタッフ間で情報共有をして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にスタッフと情報交換し検討を行い、多様な意見を取り入れたケアプラン作成目指している。	記録や職員の意見を聞きモニタリングを実施している。課題があれば利用者や家族、かかりつけ医等の意見を参考に、その都度、介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別記録で記入し、スタッフ間で情報共有し常に見直しをできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や状態等に応じて必要なサービスが行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	2022年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍につき必要な機関との連携が思うように取れなかった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族、職員と医師と話し合い必要な診療を受けている。	入所時、利用者や家族から同意を得て、24時間対応型医療機関に「かかりつけ医」を変更し、必要時、医師が施設を訪問し診療している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療所と連携を図り看護職員が必要な指示や助言を行い、夜間はオンコールにて対応をして頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員やワーカーと面会や情報収集を行い入退院に向けての情報共有を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、入居前や入居契約時及び必要に応じて当施設での対応を詳細に説明している。	利用者が重度化した場合は、利用者や家族の希望を確認し、看取り研修を受けた職員や訪問看護師らがチームを組んで対応している。看取り後の職員ケアも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応や応急手当、AED研修などを行い対応できるよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っているが、今後地域との協力体制を築けるよう努力する。	火災対策では、年2回消火器操作法の自主訓練や避難訓練を実施している。地震対策として避難訓練を独自に実施したが、新興住宅地区でもあり、現在は地域ぐるみの避難訓練は、実施されていない。		

自己	外部	項目	2022年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーの書面を掲示し、また施設内研修にて個人情報保護について学ぶ機会を作っている。	どの様な場面でも、利用者の眼を見てゆっくり声掛けし、話をしっかり聞くように努めている。プライバシーを守るため、利用者の部屋を訪ねる時やトイレ使用時は、「ノックする」よう利用者に促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択頂くケースをもち、意思や希望を確認して自己決定をしていただけるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっているが、利用者の意思やペースに沿って、スケジュール通りに過ごすかどうかはご本人に決めて頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容を利用しているが、コロナ禍により定期的に行えないときがあった。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを利用者で行い、スタッフと一緒に食事をしている。	栄養バランスのとれた宅配食を利用している。「刻み食から普通食での完全摂取」を目標に施設で、食形態の調整をしている。毎日、味付けの変わる「おやつゼリー」を楽しみにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別記録に記入している。嚥下状態や体調に合わせて食事形態を刻み食やミキサー食にして工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。一部介助及び全介助にて仕上げを行っている。その他口腔用スポンジや口腔用ウェットティッシュを使用し清潔の保持に努めている。			

自己	外部	項目	2022年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導の声かけを行い排泄の自立を支援している。	職員の見守りで、昼間は紙パンツやパットを使用しながらも全員が「トイレ排泄」を目標にしている。夜間はオムツ利用者もいるが、行動探知センサーは使用していない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、その日の体調に合わせて適度な運動を習慣化するようこころがけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や様子を見ながら声掛けを行い、本人の希望や変更を行っている。	週2回の入浴が基本であるが、利用者の希望や体調に合わせてシャワー浴や入浴回数を調整している。利用者の全身の健康状態を観るため入浴剤は使用していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動を取り入れ、生活リズムを整え夜間の安眠に繋げている。特に昼夜逆転しないよう注力している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、家事等ご本人が出来ることをお願いして行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により施設周辺や近くの公園などへ散歩を行っている。	花や野菜を育てている。コロナ禍で、外出範囲を制限しているが、ホーム周辺のコースを短時間で散歩し気分転換をはかっている。車での外出支援は控えている。		

自己	外部	項目	2022年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理をしておりご要望や必要なものがある時には一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分が愛用していた物を使ってもらったり、施設内も柔らかな調光にしている。	朝はリビングで体操をし、昼食後は廊下を歩行訓練に利用している。掲示物等を工夫した居心地の良い雰囲気のリビングで多くの利用者が寛いでいる。職員は、『利用者と話をしていないで1日が終わらない様に…』と利用者に積極的に声掛けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自由に好きな時に来られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご見学時やご入居前にご本人が使っていた物を持って来て頂き落ち着く慣れ親しむ場所として頂いている。	入居にあたっては利用者が使い慣れた備品などを持ち込んで頂き、早く居室に慣れて頂く事を勧めている。室内の洗面台は、歯磨きや洗面、乾燥防止の濡れタオル置き場にも活用している。掃除やクローゼット内の整理整頓は職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用廊下やトイレなどには手すりを設置し、ゆとりのあるスペースの確保も行っている。		